

漁海況速報

5-No. 25

茨城県水産試験場
漁業無線局

令和5年 9月22日～ 9月28日

電話 (029) 273-7911

FAX (029) 270-1480

<http://www.pref.ibaraki.jp/soshiki/nourinsuisan/suishi/index.html>

【海況図説明】

1. 黒潮は、犬吠埼の南東50マイル付近を北北東に流れ、
36°20' N 142°30' E付近を流去している。
2. 本県沿岸域は、23～25℃台の水温となっている。

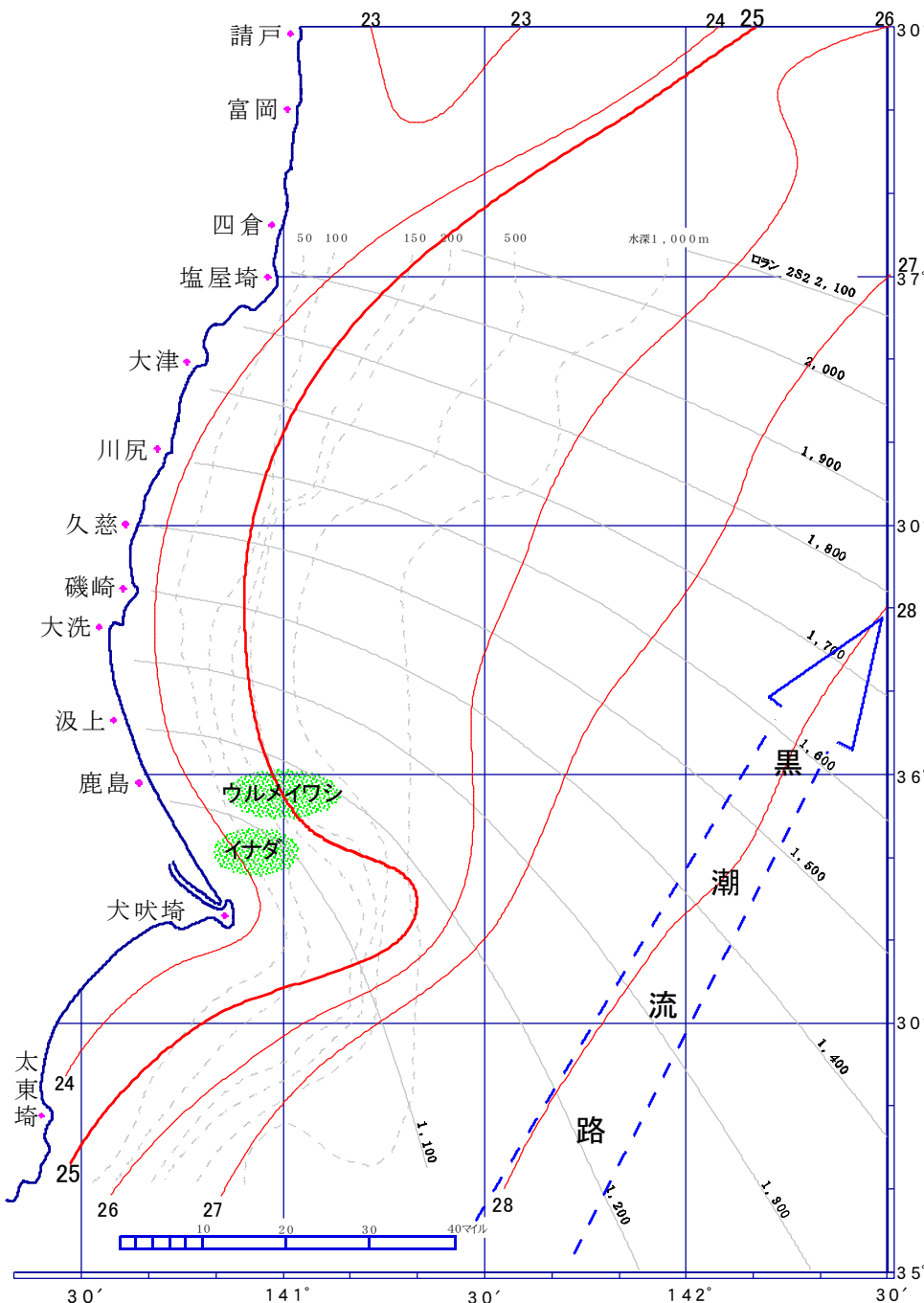
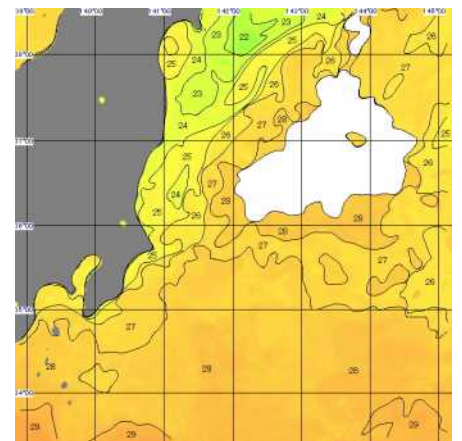
那珂湊定地水温(℃)

日	令5	令4	平年
9/22	24.2	21.1	22.0
23	23.6	21.0	21.9
24	23.3	21.6	21.8
25	22.8	21.9	21.7
26	23.2	21.6	21.6
27	23.3	21.6	21.5
28	23.3	23.2	21.4
平均	23.4	21.7	21.7

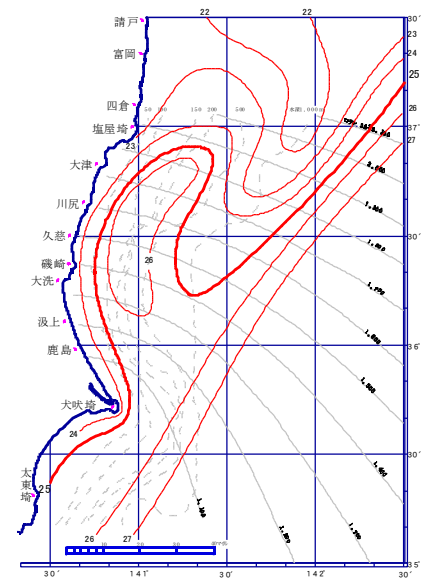
30年平均: 1991～2020年

令和5年 9月22日～ 9月28日

【1週間合成衛星画像】



【海況図】



令和4年 9月23日～ 9月29日

【海況図】

漁況の特徴

5 - No. 25

属地、単位=四捨五入

9/21~9/27

◎

まき網

(漁獲は1投網当り)

ウルメイワシ・犬吠埼の北北東20マイル付近で1トン(1ヶ統)の漁獲。

イナダ・・・犬吠埼の北北東10マイル付近で20トン(1ヶ統)の漁獲。

◎

小型船

(漁獲は1隻当り)

◇船曳網

シラス・・・大津地先から磯原地先で22~131kg、日立地先で15~246kg、那珂湊地先から波崎地先で3~676kgの漁獲。

カエリ・・・大津地先から磯原地先で75~1,250kgの漁獲。

◇曳釣り

平潟地先から高戸地先でヒラメ5~20kg、久慈浜地先から大洗地先でヒラメ1~10kg、イナダ1~3kg、タチウオ1~2kg、マゴチ1~5kg、サワラ2~4kgの漁獲。

◇手釣り

平潟地先でタチウオ2~15kgの漁獲。

◇建網

鹿島地先でイセエビ10~50kgの漁獲。

魚種	漁法	組名	水揚量 kg	平均単価	水揚金額 円	延隻数
シラス	船曳網	久慈浜丸小	1,922	956	1,837,893	21
		久慈町	1,186	875	1,037,188	11
		那珂湊	511	792	404,900	4
		大洗町	6,243	833	5,197,490	30
サヨリ	大型定置網	会瀬	59	369	21,894	
ヒラメ	小底5t以上	平潟	1	511	511	
		久慈浜丸小	51	1,123	56,920	
	固定式刺網	久慈町	18	427	7,520	
		那珂湊	11	2,543	28,740	
	その他釣り	大洗町	38	2,477	94,880	
		平潟	249	1,824	453,515	
	その他釣り	那珂湊	98	2,444	240,215	
		大洗町	21	1,486	30,620	
大型定置網	会瀬	17	1,818	30,906		
マコガレイ	小底5t以上	平潟	1	290	290	
		久慈浜丸小	2	1,200	2,160	
タイ類	小底5t以上	平潟	1,008	200	201,243	
		久慈町	18	331	5,950	
	固定式刺網	平潟	3	400	1,120	
		平潟	26	600	15,286	
	大型定置網	会瀬	68	479	32,460	
スズキ	固定式刺網	大洗町	2	300	600	
		平潟	5	715	3,434	
アナゴ	小底5t以上	平潟	93	716	66,700	
		川尻	3	500	1,350	
		久慈町	19	562	10,730	
		那珂湊	5	770	3,925	
アンコウ	小底5t以上	平潟	78	156	12,103	
		川尻	7	150	1,110	
		久慈町	118	241	28,540	
		那珂湊	10	202	2,060	
タラ類	小底5t以上	久慈町	2	100	200	
ホウボウ	小底5t以上	平潟	117	577	67,702	
		その他釣り	9	904	8,496	
フグ類	小底5t以上	平潟	6	1,232	6,898	
		大型定置網	会瀬	1	1,050	1,050
サワラ	その他釣り	那珂湊	2	2,500	5,250	
イセエビ	固定式刺網	平潟	11	3,646	40,100	
		川尻	128	3,713	474,850	
		久慈浜丸小	532	3,919	2,083,100	
		久慈町	84	3,800	320,340	
		その他漁業	平潟	6	3,850	23,100
スルメイカ	小底5t以上	平潟	698	372	259,460	
		川尻	76	400	30,360	
		久慈町	893	471	420,800	
		那珂湊	65	1,201	78,065	
マダコ	小底5t以上	平潟	54	425	22,956	
		那珂湊	21	604	12,915	
マアジ	小底5t以上	平潟	1,875	50	93,920	
		久慈町	126	200	25,100	
	その他釣り	那珂湊	7	381	2,550	
		平潟	1	350	350	
	大型定置網	会瀬	199	310	61,801	
サバ	小底5t以上	平潟	10,800	41	447,500	
		久慈町	32	50	1,620	
		大型定置網	会瀬	74	76	5,618
ブリ類	その他釣り	平潟	2	330	660	
		那珂湊	16	835	13,686	
	大型定置網	大洗町	27	1,515	41,370	
		会瀬	939	773	725,601	
カツオ	その他釣り	平潟	303	486	147,147	

注 延隻数:銘柄別隻数

茨城県水産試験場漁業無線局

サバ類の漁況と秋漁の予測

1. 北部まき網サバ類水揚量の推移と資源状況

北部まき網によるサバ類水揚量は、加入尾数が極めて多かった H25 年以降、30 万トン程度まで増加しましたが、H29 年からは減少傾向となっています。特に R4 年の水揚量は 5.8 万トン（前年の 40%）と記録的な不漁となりました（図 1、棒グラフ）。

一方で、マサバの資源加入は、H25 年以降比較的良好に推移しており（図 1、折れ線グラフ）、資源状況は高い水準と評価されています。

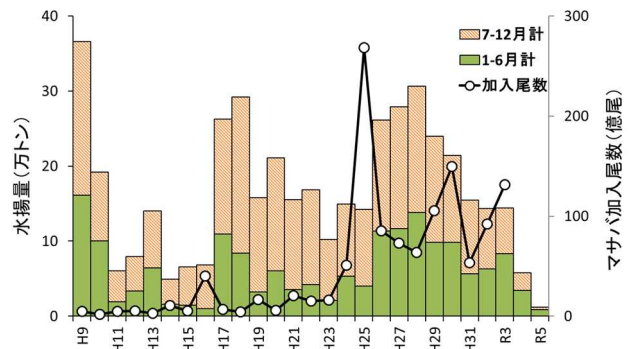


図 1 北部まき網サバ類水揚量とマサバ資源加入尾数（令和 5 年水揚量は 8 月分まで）

2. 昨年からの不漁要因

資源量が多いにもかかわらず、なぜサバ類が獲れないのでしょうか。水産研究・教育機構によるとサバ類の漁場形成が不調となっている要因として、以下のようなマサバの南下回遊期における海洋環境の変化が推定されています（図 2）。

- ① 秋季から冬季にかけてのマサバの南下回遊期において、親潮が弱勢化し、三陸沿岸への張り出しが弱くなった結果、マサバの南下回遊経路が沖合化した可能性がある。
- ② さらに、黒潮続流が沿岸寄りかつ北向きに変化したことにより、日本近海の漁場における水温低下が阻害され、漁場への回遊時期の遅れや漁期の短期化が発生している。

上記要因により、サバ類を漁獲主対象とするまき網で漁獲されにくい状態にあると推定されています。

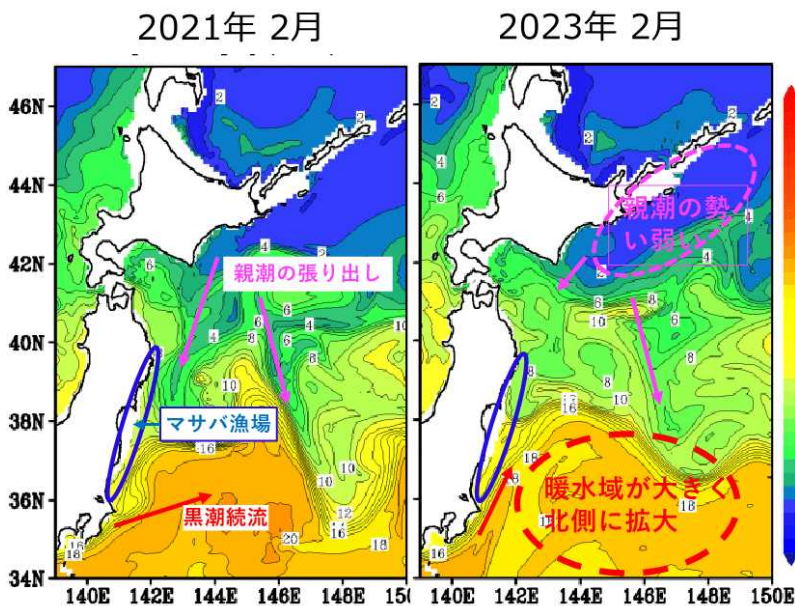


図 2 2021 年、2023 年 2 月 1 日の水温（水深 100m）FRA-ROMS II により作成「最近のマサバ（太平洋）の資源の状況及び不漁の要因について」（令和 5 年 4 月 21 日、水産研究・教育機構発表資料）より引用

図 2 注：サバ類の漁獲が多かった 2021 年 2 月（図 2 左）、不漁である 2023 年 2 月（図 2 右）を比較すると、① 図 2 左では親潮の三陸沿岸への張り出しに沿ってサバの群れが南下回遊するが、図 2 右では親潮の三陸への張り出しが弱く、サバの分布が沖合化した可能性がある。

また、② 図 2 左では黒潮続流が鹿島灘付近から沖合へ流れているが、図 2 右では黒潮続流が沿岸寄りに流れることで漁場の水温が下がらず、回遊時期の遅れや漁期が短くなるなど、漁獲されにくい状態となった可能性がある。

なお、今年9月下旬現在においても、犬吠埼以北の北部太平洋海域では親潮の弱勢化と黒潮続流の北偏傾向による高水温が継続しており、北部まき網による今年1～8月のサバ類水揚量は1.1万トンで、前年同期（3.5万トン）を大きく下回っています。

3. 秋漁の漁況予測

①水揚量

北部まき網による1～6月のサバ類水揚量と9～12月のサバ類水揚量の間には正の関係があります（図3）。今年の1～6月の水揚量は0.9万トンと極めて少ないため、9～12月の水揚量も少ないと見込まれます。

また、上述のとおり昨年以降の海況はサバの漁場形成に不適な状況と考えられており、現在の海況が続くと水揚量は低調であった前年並と予測されます。

②漁期

H26年頃からサバ類の秋漁の漁期に遅れがみられています。北部まき網による9～12月の秋漁におけるサバ類の漁獲状況を整理したところ、秋漁が本格化した日（初漁期：9～12月の累計水揚量の20%を達成した日と定義）はゴマサバ資源量が多いと早く、マサバ資源量が多いと遅くなるのが明らかとなっています（図4）。

この関係から推定すると、秋漁の本格化は11月中旬以降となる見通しです。

③魚体

秋漁では産卵準備のための南下回遊群が主な漁獲対象となり、魚体についてはマサバ体長25～36cm（体重160～550g、3歳以上）を主体に、18～32cm（50～360g、1歳魚、2歳魚）も漁獲されると考えられます。

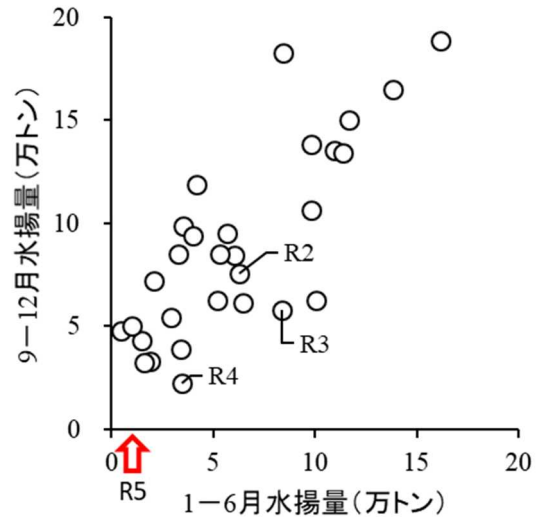


図3 北部まき網1～6月サバ類水揚量と9～12月サバ類水揚量の関係

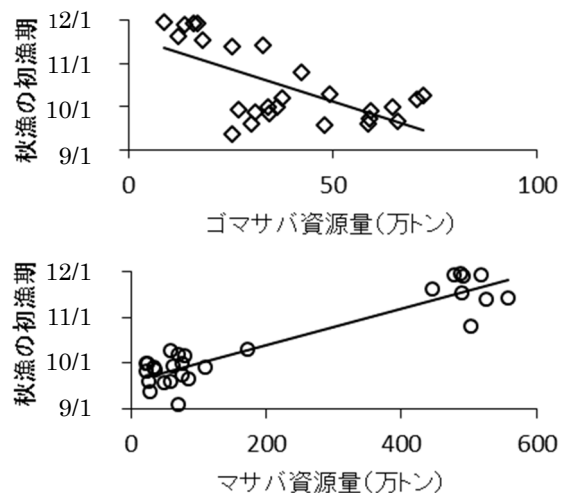


図4 秋漁の初漁期とゴマサバ資源量（上段）、マサバ資源量（下段）の関係

☆秋漁予報のまとめ

- ・親潮の勢力が弱く、黒潮続流が三陸沖まで北偏している現在の海況が続くと、水揚量は低調であった前年並
- ・漁獲がまとまるのは11月中旬以降
- ・体長25～36cm（体重160～550g、3歳以上）を主体に18～32cm（50～360g、1歳魚、2歳魚）も漁獲される

（回遊性資源部 荒井）